

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

わたし色

生活情報誌「悠悠と」
編集長・真鍋康利さん



ミスターグッドニュース 「アーカイブ」と「Mr.GN」

先日、7月5日に掲載された本欄をお読みくださった読者からお電話をいただきました。そこに書いた「アーカイブ」という言葉が気になったそうです。わざわざ新聞社に連絡先を尋ねてのこと、うれしくもあり、緊張もしました。少し仕事を立て込んでいたので、ひと月後にお会いすることをお約束しました。

その後、お手紙も届きました。「眼鏡をかけてスレンダー、85歳」とおっしゃいます。待ち合わせ場所におもむくと男性が1人立っています。が、どう見ても85歳には見えません。通り過ぎようとする、「真鍋さん？」と声がかかりました。私の顔は紙面に載っているのですが、先方から見つけてくれたのです。すくっと立った姿は背筋が伸び、とてもお若く見えました。

彼は札幌出身、東京の大学を出た後、得意の英語を生かそうと米国の銀行の日本の支店に勤めていたそうです。米国流なのでしょいか、職場ではニックネームが飛び交い、米国人の支店長から名付けられた彼のニックネームは「ミスターグッドニュース(Mr.GN)」。昇給や賞与などの良いお知らせを全行員にアナウンスする役目を担っていた

からです。これが気に入って、現在に至るまで署名に使っているのです。

この上司はいつも日本語と英語をチャンポンにして話していたそうです。ある時、彼の同僚の日本人に、書庫から「アーカイブボックス」に入っている資料を持ってくるよう指示しました。その同僚はしばらくして手ぶらで戻り、「赤い箱はなかった」「アーカイブボックス」を「アーカイブボックス」と受け取ったのです。

50年も前の話で、アーカイブという言葉はまだ一般的ではなく、このころ初めて聞いた

たそうです。その後も長く耳にすることはなかったのですが、最近たまたま聞こえてくるようになり、私のコラムで火が付いたと言います。

彼の興味の対象は、日本語英語のチャンポンのおかしさ、アメリカンジョークのこと、米画家ノーマン・ロックウエルのこと、記念コインのこと、星座のことなど多岐にわたります。大学の応援団のもつ礼儀やあいさつ、言葉遣い、パワー、人を思いやる心に引かれ、母校の応援団を後援しているそうです。

彼の頭の中の赤い箱には、まだまだたくさん興味深い話、面白い話が詰まっているようです。彼と出会えたことは、私にとってもグッドニュース。これからもMr.GNにいろいろな面白い話を聞かせていただきたいと思います。彼こそがアーカイブそのものなんです。お元気なはずですよ。